

日本の留学生活

于 英花¹⁾*

1) 元 香川大学大学院工学研究科知能機械システム工学

*Correspondence: 高松市林町 2217-20 (香川大学工学部知能機械工学科)



(前列左から2人目が著者)

私の故郷は中国の東北の吉林省・長春市である。私はその地で生まれ育ち、その地の子供たちと同様に地元の小・中・高等学校へ通っていた。学生時代は冬休みがやって来るのを一番期待していた。長春の冬は大地が雪で覆われ、まるで銀色の夢の世界にいるみたい。この雪で飾られた季節に、家族と一緒に中国の旧お正月（除夕）を迎え、春がやって来ることをずっと楽しみにしていた。

時が流れ、1999年に高校を卒業し、念願の大学に入学できた。大学でいろんな人や先進技術や各国の文化などと出会い、もっと外の世界を見たいと思っていた。そのとき、アジアで最も発展している国である日本に興味を持った。いつか日本へ留学したいと常々考えていた。ちょうどその頃、同じ日本へ留学することが夢だった、現在の主人と出会った。そして、大学4年生の時に、隣の同級生たちは次々就職活動をするなかで、私と主人は黙々と日本へ留学の準備を始めた。それから、日々日本語を勉強し、二人の夢を目指して、頑張っていた。しかし、思うように順調に進めず、私と主人は一緒に日本へ留学することが出来な

かった。2003年10月に主人一人で日本へ留学し、その一年後の2004年夏に、私は昔からの夢と希望を持って日本へやって来た。

長いような短いような、日本へ来て4年になった。振り返ってみるとこの4年間にいろいろなことがあったが、全体的に非常に充実した日本生活を送っていたと思う。最初に日本に来たとき、非常に印象深い三つのことが現在も頭の中に残っている。

一つ目は日本の環境の綺麗さに驚いた。どこに行っても、綺麗な町、優しい緑はいっぱいだった。これがきっかけで、以前中国にいる時に考えたこともない環境問題に非常に興味を持ち、普段の生活から環境に貢献できることを自分からやるようになった。

二つ目は日本人の優しさ、熱心さであった。私の最初の1ヶ月は、日本語を話すことは難しく、家に出ることはほとんどなかった。その時、一人の日本人ボランティアの方から話し掛けられて、日本語や日本生活などいろんなことを教えてもらった。彼女のおかげで私は勇気付けられ、人前